

外来における気道感染症および下痢症患者に対する経口抗菌薬使用実態調査

1. 研究の対象

過去1年間に外来にて急性気道感染症または急性下痢症の診断を受け、経口抗菌薬を投与された患者さん

2. 研究目的・方法

【目的】

近年、抗菌薬に対する耐性菌の増加は国際的に重大な問題となっています。これを受け、2020年度には、抗菌薬適正使用支援加算の要件が一部改訂され、外来の過去1年間の急性気道感染症および急性下痢症の患者数と当該患者に対する経口抗菌薬の処方状況を把握することが新設されました。当院において円滑に処方状況を把握するシステムを構築し運用を開始したため、本運用および把握した抗菌薬処方状況について調査したいと思います。

【方法】

電子カルテ情報のうち、過去1年間の外来患者さんの診断病名および医薬品オーダ情報をDWHより抽出しデータベース化しました。診断病名はICD10に準拠し、「抗微生物薬適正使用の手引き第二版」記載疾患を対象としました。抽出データをMS EXCELにリンクし、VBAを用いて簡便に情報を閲覧できるシステムを構築しました。構築システムを用いて、過去1年間ににおける急性気道感染症および急性下痢症の患者数と当該患者に対する経口抗菌薬の処方状況を抽出し、実際に経口抗菌薬が処方された患者割合および薬効分類別割合を算出しました。このようにして、外来における急性気道感染症または急性下痢症経口抗菌薬使用実態を振り返って調査したいと思います。

3. 研究に用いる資料・情報の種類

本調査では、対象患者さんの外来受診時の基本情報、診断情報、抗菌薬処方情報を使います。含まれる情報として、以下のものが挙げられます。

患者さんのID、年齢、性別、体重、肝機能や腎機能などに関わる検査値、診断病名、処方された抗菌薬名、用法用量、などを情報収集します。

本調査において患者様に特別な費用負担がかかることはございません。

4. 外部への試料・情報の提供

個人情報の取り扱いについては、氏名や住所など患者さんを直接特定できる個人情報は削除いたしますので、第三者に特定されることはありません。プライバシーへの最大限の配慮を行った上で、調査成果は学会や学術雑誌などで公表される予定です。

5. 研究組織

近江八幡市立総合医療センター 薬剤部 小川暁生

6. お問い合わせ先

本研究は診療録（カルテ）や診療情報データベースから診療情報を調査する後ろ向き研究であり、情報等の使用について同意書は頂きません。診療情報が本研究に用いられることについてご了承いただけます。

ない場合には研究対象としないので、下記の連絡先にお申し出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。対象となる方におかれましては、研究の主旨・方法をご理解いただきますようお願い申し上げます。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

近江八幡市立総合医療センター 薬剤部

小川 暁生

TEL 0748-33-3151(お問い合わせの際は「外来の経口抗菌薬使用実態調査の件で」とお伝えください)